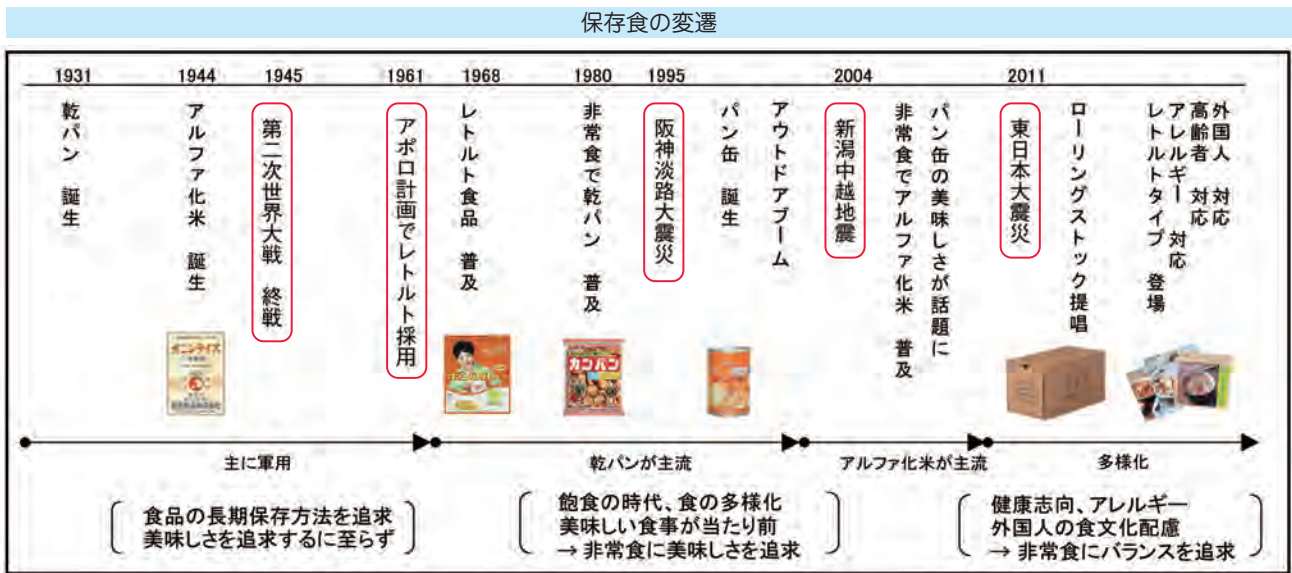


新技術・製品情報

## 求められる、自助・共助による減災への備え

### ■今必要な減災への備え

南海トラフ地震が70%の確率で30年以内に発生すると言われている今日、「減災」に対しては、建築技術の進歩による耐震や免震とともに、食糧や水の備蓄という一人一人の行為が不可欠になっている。東日本大震災では、関東でも食料や消耗品の買い占めが起こりパニックに陥ったケースがあったことから、起きてから備えるのではなく、起きる前に適切な備えをすることの重要性が認識され、その内容や方法も進化・多様化してきている。

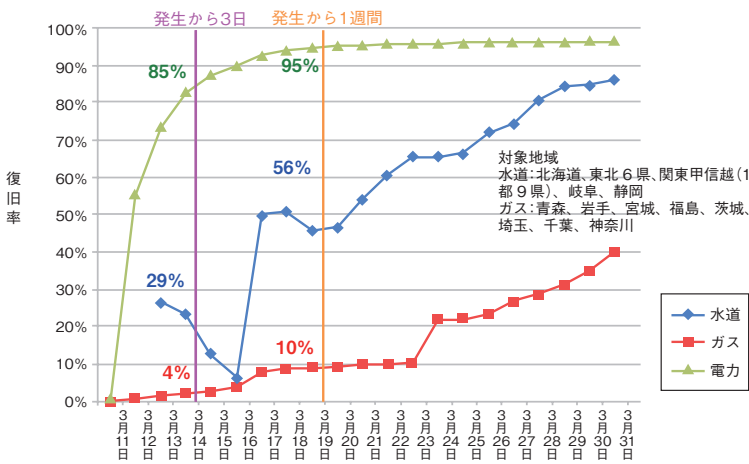


### ■ライフライン被害の復旧状況と備蓄量

東京都では大震災発生時のライフライン復旧日数について、地中に埋まっている水道とガスは、電力に比べて余計に時間が掛かると想定している。また、備蓄量の目安は、少なくともライフラインの復旧に最低必要とされる3日分、できれば1週間分用意することが望ましい。

東日本大震災における水道・ガス・電力の復旧率推移

(電力は東北電力管内(青森・岩手・宮城・福島)のみ)



応急復旧日数

	東日本大震災	阪神・淡路大震災	首都直下地震想定(内閣府、平成17年2月)
下水	22日	36日	30日
電力	5日	1日	6日
ガス	34日	61日	55日
電話	18日	14日	14日

対象地域  
東日本: 北海道、東北6県、関東甲信越(1都9県)、岐阜、静岡  
阪神・淡路: 不明だが、該当地域と推定(兵庫、大阪、京都、奈良)

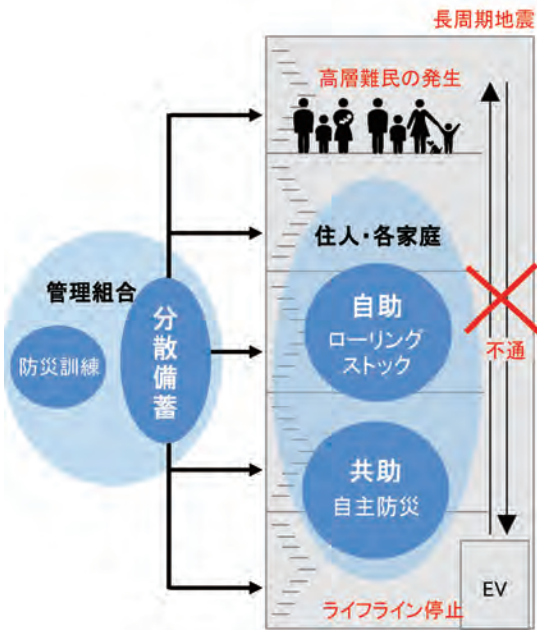
参考)「首都直下地震対策専門調査会報告(案)」  
(平成17年7月 中央防災会議)

## ■ローリングストック法による安心の備蓄

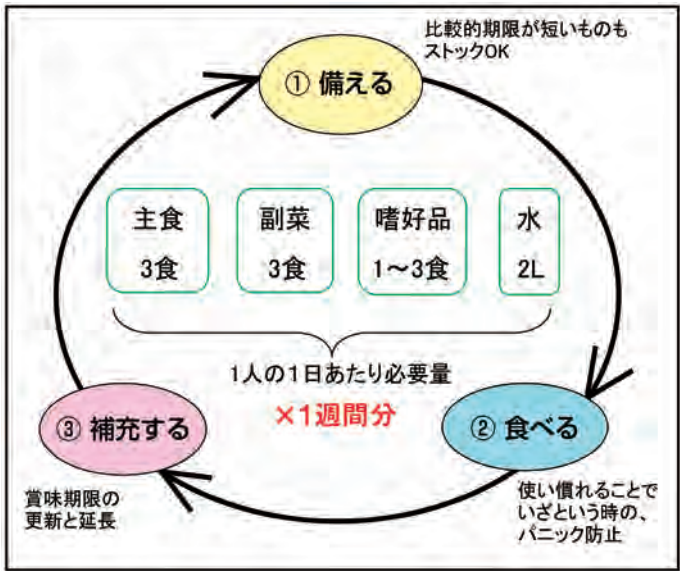
非常食を賞味期限などを目安に定期的に消費し、使用した分を補充していく備蓄方法がローリングストック法である。例えば、管理組合が管理する非常食であれば、賞味期限 1 年未満になったものを住民参加の防災訓練時などに参加者同士で試食したり配布したりして消費し、その分をまた補充していくようにしているところも少なくない。

また、高層マンションではライフラインが途絶えると地上への行き来も困難となり、エレベータ使用不能による「高層難民」の発生が災害時の課題の一つになる。管理組合による各階への分散備蓄はもちろん、各家庭が最低 1 週間は自力生活できる備蓄力を備える働き掛けも大切なことである。

マンションにおける備蓄法



ローリングストック法



1 週間分の備蓄数量 目安

		主食	副菜	嗜好品	水
		アルファ化米、粥、パン缶、クラッカー、フリーズドライ麺、乾パン 	レトルト総菜、缶詰、乾物、フリーズドライ食材、野菜ジュース 	チョコレート、飴、羊羹、乾燥餅、ドライフルーツ、ナッツ 	
各家庭	1 人	21 食	21 食	7 食～21 食	2 l × 7 本
	1 世帯 (4 人)	84 食	84 食	28 食～84 食	2 l × 28 本
管理組合	100 世帯 (400 人)	8400 食	8400 食	2800 食～8400 食	2 l × 5600 本